



Q&A で解決!! 消化器内科のギモン

Q1 胃ポリープ、大腸ポリープについて教えてください

A1 胃カメラで良く見るものは胃底腺ポリープと過形成ポリープです。
胃底腺ポリープはピロリ菌に感染しておらず、萎縮していない胃粘膜からできるもので、ほとんど問題はありません。

過形成ポリープはピロリ菌に感染している(していた)萎縮している胃粘膜からできるものです。基本、経過観察をしますが、大きくなると稀にがんになります。また、出血して貧血の原因となることもあります。ピロリ菌の除菌で消失する場合があります。

その他に将来がんになる可能性がある胃腺腫というものがあります。これもピロリ菌に感染している(していた)萎縮している胃粘膜からできるもので平坦な隆起です。2cm以上になるとがんになっていることが多いため、内視鏡を使って切除します。前の2つのポリープと比べると発生頻度はかなり少ないです。

大腸は胃と違って腺腫性ポリープが多いです。胃腺腫と違って隆起が目立つ一般の人が想像するポリープの形をしています。やはり、大きくなるとがんになる可能性があり、6mm以上になると予防的に内視鏡を使って切除します。

Q2 ウイルス性肝炎にはどんな種類がありますか？

A2 ウイルス性肝炎には一過性の急性で終わるものと慢性化するものがあります。
A型肝炎はウイルスに汚染された水や食べ物(生牡蠣等)の経口摂取で感染し、急性肝炎を起こします。潜伏期間(ウイルスにかかってから発症までの期間)は3~6週間ほどです。慢性化することなく自然治癒します。衛生環境の良くない時代を過ごした人は、知らないうちに感染して免疫を持っていることが多いです。

B型肝炎やC型肝炎は血液や体液を通して感染します。B型肝炎の潜伏期間は1~6か月ほどです。感染者の7、8割が知らないうちに感染して治癒しています。(残りが急性B型肝炎です。)頻度は高くないですが、急性B型肝炎が重症化して亡くなることもあります。感染者の9割以上が慢性化せずに治癒しますが、慢性化した場合、完治する薬はまだありません。C型肝炎は6、7割が慢性化しますが、ほとんど治すことのできる薬が10年ほど前に開発されました。

E型肝炎はA型と同じく経口摂取(猪や鹿の生食等)で感染しますが、ほとんどの場合急性で慢性化することなく自然治癒します。

その他、主に10代、20代の若年層に発症する伝染性単核球症という病名のEBウイルスによる急性肝炎があります。これは、唾液等を通じて感染しますが、8、9割の人は幼少期の知らないうちに感染し免疫を持っています。発熱、リンパ節の腫れ、咽頭炎や扁桃炎等と急性肝炎の症状がみられますが、慢性化することなく、自然治癒します。

今回は胃・大腸ポリープ、ウイルス性肝炎について回答いたしました。

消化器内科に関する治療やご相談等は、かかりつけ医や身近な医療機関へご受診ください。



回答者

麻生 佳裕・あそう よしひろ
九州大学総合診療部や札幌徳洲会病院
消化器内科などで研修を行い、令和6年
1月よりくらで病院勤務。消化器内科医